みなとユネスコ会報 Bulletin
MINATO-TOKYO
MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR
ISSUED BY／MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004／HIROSHI NAGANO PRES.
発行所／港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel：03-3434-2300 Fax：03-3434-2233 発行人／永野博
Mail：info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2018 年 12 月 1 日発行 第 154 号

目　次


| | | | |
|---|---|---|---|
| P1 | 巻頭言：モンゴルに旅して | P6 | 日本の民謡と民話　島根県 |
| P2–4 | スロベニアのカルスト地方 | P7 | みなと区民まつり/茶の湯入門講座 |
| P5 | 都立三田高校生の来訪 | P8 | 事務局便り/編集後記 |


## モンゴル国バヤンウィルギー県サグサイ村に旅して

港ユネスコ協会　常任理事　磯部豊子

２０１７年９月に「イヌワシ祭とカザフ人の家にホームスティのツアー」に参加してきました。ここはモンゴル西端の地で、ロシア、カザフスタン、中国に接し、アルタイ山脈の麓にあります。カザフ人が多く、モンゴル語よりカザフ語が主流です。組み立て式の家もウイと呼び、モンゴル語圏のゲルより天井が少し高いようです。このツアーの目的はカザフ人の家にホームスティし、年に一度のイヌワシ祭の見物とアルタイの高原をドライブして氷河を見ることでした。

イヌワシ祭では、イヌワシ狩り（カザフ人はタカではなくイヌワシを使う）、ククブル（山羊を馬上から奪い合う）、クズコアル（それぞれ馬に乗りながら女性が男性を鞭で叩きながら追う）などの多彩な競技が行われます。近郊から集まった人達は民族衣装で着飾り、競技に出る男達は毛皮の服に身を包んで勇ましさを誇っています。

泊まった家では、ウイが準備され、もてなしの羊を解体して料理をしてくれました。解体の前には祈り（イスラム教）が捧げられます。羊の皮を剥ぐ手伝いをさせてもらいましたが、なかなか力のいる仕事でした。羊肉と野菜の煮込み、それにミルクティー（塩をちょっと入れると何杯でも飲めます）がふるまわれました。夕食後には、家族がウイの中に集まってきて、歓迎の演奏会が始まりました。ドンブラ（弦楽器）が演奏され、大人から子どもまで代わる代わる歌ってくれました。

この地域の人達の多くは、夏と冬には家畜と共に移動するので、舗装された道路や上下水道の設備はありません。トイレは、家から４～５０ｍ位離れた所に掘られた穴で、コの字型にブルーシートで囲ってあります。夜、ヘッドランプをつけて、迷わずに行くのはスリルがあります。周りには馬や牛などの寝息が聞こえ、空には落ちてきそうな星々、天の川が弧を描いています。自分も生き物の一種にすぎないと、あらためて感じさせられました。水は川から汲んできます。ですから川の水を汚さないようにしていますし、自然から得られるものを大事にしています。

首都のウランバートルに戻ると、ビルが建ちならび、自動車があふれています。空気の悪さは北京以上だそうです。一週間ほどの滞在でしたが、物は必要なだけ、それ以上は持たない生活に触れたあと日本に戻ると、情報、商品があふれかえっており、それに惑わされないようにするのに疲れます。

これほどまでに物がいるのだろうかと考えてしまいました。

2018 年度　　第１回国際理解講演会

# スロベニアのカルスト地方-歴史・食文化と日本との関係-

**講師：ボシティアン・ベルタラニチュ氏（スロベニア）**
**城西大学　現代政策学部准教授　城西中欧研究所**

日時：2018 年 9 月 27 日（木）　18：30～20：30
会場：港区生涯学習センター　305 号室

講師紹介は、当協会の永野会長に紹介頂き、40 年前にユーゴスラビア（現スロベニア）から、オーストリアに行かれた時､ビザ無しで通過出来たその国は、森と湖がとても素晴らしいところで有ったと言う。今回の港ユネスコでの講演は、奥村副会長が成人教室で、城西大学のボシティアン・ベルタラニチュ先生（Dr.Bostjan BERTALANIC.PhD）の講義を受け、港ユネスコの講演会に繋がりました。

## 講師プロフィールと自己紹介

スロベニア生まれ、リュブリャナ大学｢日本研究科｣　専攻は国際関係論、第一次世界大戦以降バルカン半島国境問題に対する日本外交研究など。2012 年東京大学政治学博士号取得。スロベニアは、日本の四国ほどの大きさで、人口は、２００万人、ダイバーシティで文化的にも優れている。イタリア近くのカルスト地方クロスの生まれの私は、子供の頃から日本に関心は有った。高校卒業の時、「警察」か「大学」に行くか悩んでいたが、外国語に優れていたので国公立大学のリュブリャナ大学　「日本語と日本史」を専攻し、人気がまだ少なかった言語を選んだ。奨学金を貰い、筑波大学の｢日本史｣を勉強し、長年日本に住まわれ、二十歳の成人式も日本で迎えた。スロベニアに帰国後、スロベニアの大学は 4 年目には、研究した卒業論文を書く義務が有るが、日本の大学は論文を書かない事も有る。再び、奨学金の話に恵まれ、その時軍隊を逃れられた。スロベニアの軍隊制度は、一年間、勉強や研究、美術等の勉強をしている学生は、一年間病院等の活動をする場合、特別に免除される制度があった。スロベニア軍がいまプロフェッショナル化されたので、この制度はもうなくなりました。2012 年東京大学にて、政治学博士号を取得し、2014 年城西大学に就職しました。城西大学には東ヨーロッパ城西大学中欧研究所が有り、そこに所属している。其の間にも一橋大学法学部にて大学院生を教えた。

## 講演内容の要約：

風光明媚なスロベニアの中で、もっとも個性溢れる地方がカルスト（石灰岩の台地）地方でしょう。この地方は石灰岩で出来ているので地形的に興味深いだけでなく、スロベニアとイタリアを結ぶ特別な文化的地域でもあります。この講座では、カルスト地方の歴史、食文化、ワインなどを紹介して頂いた。

### Ⅰ.カルスト台地

カルスト大地は石灰岩で形成されている。カルスト現象は世界中に有るが、スロベニアのカルストは世界初で有った。カルスト地形には様々な形状が有り、日本の小学校教科書にもスロベニア語で　ホーリエ:｢畑｣と書かれている。Kras（クラス）はカルストの原語で有り、｢水が溢れる処、川が溢れる処｣と言われ、水と石の間に生まれた。と言う意味であった。スロベニアのカルスト地方の昔は、樫の樹木が多く緑の国であったが、１４世紀から１6 世紀頃イタリア、オーストリアなどの国々の建築用の木材とするために、山の木は全て伐採され、カルストでは「イタリアのベニスはカルスト木材の上に立っている」と言われている。他の国も鉄道の枕木として使った。カルスト台地は伐採され砂漠化し、石だけの荒涼とした台地に成り、当時の記録ではここを通った人々は地獄の様だととても悲しんだ。19 世紀末にオーストリア、ハンガリーの貴族が何かを植えようと植樹を始めた、其の木は、黒松で有った。黒松は生命力が強く、砂漠でも根付くと言われる程で、UNESCO によるドキュメントが制作され、現地の人々と植樹（黒松）のプロジェクトが 1860 年代に始まった。現在は、スロベニア大使館での国のプロモーションでは、「スロベニアは中央ヨーロッパの緑の宝物」と言われている。

### Ⅱ.ポストイナ鍾乳洞(Postojnska Jama)

ポストイナ鍾乳洞は1818 年オーストリア皇太子のフェルディナント一世の訪問に備えていた際に地元のカル･チェチによって発見され、ヨーロッパ最大級の規模だという。鍾乳洞の中は気温が 8 度～10 度程で、洞窟内はとても涼しく、素晴らしい鍾乳石も広さも有り、ポストイナ鍾乳洞は、24 ㎞も広さが有るが見学コースは 5 ㎞程になる。洞窟内はトロッコ電車に乗り見学する。洞窟内には、コンサートホールやダンスホール等も有り、とても

ユニークな鍾乳洞です。トロッコ電車を降りて少し歩くと谷に掛かる橋がある、第一次世界大戦中、ロシア人捕虜によって建設された「Russian Bridge」（ロシア橋）がある。又、洞窟内には数種類の特長的な鍾乳石など見学出来、最後にポストイナ鍾乳洞のシンボルにも成っている、白い鍾乳石は「Briljant 」（ブリリアント）と呼ばれている。

＊ホライモリ（Proteus Anguinus）

洞窟内には貴重な生き物も生息している、それは日本名で「ホライモリ」、英語名では「プロテウス」と言う。目は退化し、体長は 20 ㎝～30 ㎝で体の色は白く、白人の肌に似ている事から　“人間の魚”を意味するスロベニア語「チュロベシュカ・リビッア」(Človeška ribiča)魚では無く両生類であり、1689 年にヤネス・ヴァイカルト・ヴァルヴァソルが書物には、「ドラゴンの子供（幼体)」と紹介している。ホライモリは、10 年に一度しか産卵せず、2016 年鍾乳洞の展示水槽の中で産卵をし、話題になったと言う。

＊洞窟城（Predjama Grad）ポストイナ鍾乳洞から北西に 9 km離れ、高さ 123 mの切り立った断崖絶壁に建つ 12 世紀ごろ建った中世の城は、15 世紀の城主エラズム・プレッドヤムスキで騎士であったが、金持ちの貴族から財宝を奪い、貧しい民に分け与えていた義賊でもあった。ロビンフットとも言われた。現在は 16 世紀～19 世紀の家具や絵画、当時の生活を再現した人形の展示がされている。

**Ⅲ.シュコツィアン鍾乳洞（Škocjanske jame）**

ポストイナ鍾乳洞から南西に 33 kmのクラス（kras）地方に位置する。この地名が「カルスト」の語源になった。　シュコツィアン鍾乳洞は、1986 年ユネスコ世界遺産に登録され、1999 年には最初の地下湿地帯としてラムサール条約の対象湿地帯に登録された。この地形はブドウ栽培に適しており、栄養度の高いブドウ耕作地となっている。シュコツィアン鍾乳洞の特徴は、スロベニア最大の地下水流であるレカ川が形成した、深さ約 100m もの巨大な陥没ドリーネ(doline:すり鉢型の窪地)である。

**Ⅳ.リピッツァ―ナ（Lipizzaner）**

16 世紀にオーストリアで品種改良によって生まれた軽種馬。白く美しい毛並みが特徴だが、生まれた時は黒やグレー、茶色の毛色で、約 7 年で徐々に白い毛並みに生え替わって行く。希に成長しても毛色が変わらず黒や茶色のままの場合もある。リピッツァの白馬はハプスブルク帝国の現スロベニア領内にあって、ハプスブルク家は軍用馬の開発に取り組んでいる過程において、統治下のスペインからアラブ種であるアンダルシア馬を取り寄せ、地元のカルスト馬と掛け合わせ、地名に因んでこの牧場に育つ午をリピッツァーナと呼び 18 世紀半ば頃まで重宝した。白く美しい毛並みが特徴のこの馬は、二度の大戦中の疎開を経て、現在ではオーストリアで飼育されているが、原産地リピッツァでも牧場が残され当時の技術が大事に伝えられている。他の馬に比べ比較的寿命が長く、平均寿命は約 30 年（人間換算では 120 歳）まで生きる馬も居る。現在の最長馬は 32 歳。

**Ⅴ.食・文化・教育**

＊食・文化：スロベニアは北部にアルプス（ジュリアン・アルプス）南西部にアドリア海を抱き、山川湖、平野と海、カルストから鍾乳洞まで、多種多様な自然に富む国で、日本と似ている立地も感じられる。アドリア海からの「ボラ」と呼ばれる強い風は、カルスト台地の上まで吹く事で、その強風によって土壌と恵まれた環境により、上質な「ワイン」や「トリュフ」、「プロシュート」など質の高い農産品等が生産される。カルスト地方の夏はとても暑いので、スロベニアの家は殆ど地下室が有り、夏は涼しくて美味しいものを食べながら、ワインを飲む習慣があり、主に男達が楽しむ場所でも有る。

＊ワイン：Teran（イタリア語）と呼ばれ、カルストの赤い地[Terra(土)、rossa(赤い)]を象徴するカルスト独自のワインで、家に訪れた人はそこのワインを飲まなくてはいけない、ワインを売って貰うには、大事に飲んで欲しいので、質問攻めに遭う事もあるそうだ。又、8 月には、プロシュートとワインのお祭りがあり、その年の政治の風刺や話題を載せる山車の車が出る。

＊詩人：スロベニア・中央ヨーロッパでは代表的な詩人スレチェコ・コソベル氏。22 歳の若き生涯の中で、母思いの詩人で有り、数学者でもあった彼の詩は、カルストの「松」が大きな存在であった。人生の中で社会の情勢も詩の中に書いていた。

＊小さなスポーツ大国スロベニア：1912 年、ストックホルム五輪では、フェンシングの選手（ルドルフ・ツエトコ）が金メダルを取り 2012 年ロンドン五輪では、トゥルステニャク選手が柔道女子 63 キロ級で金メダルを獲得

している。1964 年東京オリンピックの体操（鞍馬）でミロスラウ・ツェラル選手（スロベニア現首相の父親）が、金メダルを獲得し、現在はスロベニア・日本ビジネス協会で 2020 年東京オリンピックに向けた両国間ビジネスに参加している。

＊教育：スロベニアの外国語能力は極めて高く、旧ユーゴスラビアの時代からロシア語と並んで英語教育に力を入れてきた事から、特に 50 歳以下の人達の英語能力は特筆なもので有る。又、スロベニアの国公立大学 4 校（リュブリャナ大学、マリボル大学、ノヴァ・ゴリツァ大学､プリモルスカ大学）等とは、日本の大学 22 校が大学間交流協定を締結している。その外筑波大研究センターが協力を模索している。

**【質疑・応答】**

Q1)蜂蜜が有名だがスロベニアの養蜂は？

A) 養蜂はカルスト台地の立地に適し、講師の地元では古くから養蜂は盛んで永い歴史を有し、蜂蜜文化として大事にされている。父の友人はかつて毎年 200ℓ位採取出来たが、最近では様々な病気や農薬によって蜂が減少しているとのこと。

Q2) ＩＴやハイテクは国策か、それともエンジニアリングの大学の協力が有るのか？

A)教育はとても高いレベルだが、ハンガリーやポーランドの国々から比べると、スロベニアは海外からの投資や産業などを受け入れなかった。最近は日本のロボット産業が入って来ており、スロベニア人はドイツ文化の影響もあり、仕事に関する価値観が日本人と似ているのでまじめである。

Q3) 原語に関してオリンピック選手が話す時の言語は？

A) 講師の祖父は（85 歳）海外に一度も行った事は無いが五カ国語が話せる、それは国境が常に変わっていった為、多国語のドイツ語、ロシア語、イタリア語、スエーデン語、スロベニア語が話せる様に成った。スロベニア周辺国は、どの国に行くときでもスロベニアを通らなければ行けないからだ。役所などはドイツ語を使用する。又、宗教を通じて牧師はスロベニア語で話をしたが、スロベニア人はアイデンティティを守る為周辺の言語を話す事しか出来なかった。ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、英語、日本語などを勉強する。

Q4) 講師の所属している中欧研究所とは主にどんな研究？

A) 東ヨーロッパ城西大学中欧研究所には 5 人の研究者が居て、講師は「スロベニアと日本外交問題」等の国際外交の研究､日本人の研究者も居り､｢バルカン半島情勢｣の研究､等国際問題や情勢､その他の研究をしている。最近は学生の交流を重んじていている。

Q5) スロベニアと日本の関係は？

A) 日本とスロベニアは文化と教育の面が進んで居て、リュブリャナ大学と筑波大学との繋がり研究科｣の先生は全て日本人の先生で最近は､イタリアや南クロアチアからも学生が来るという。スロベニアはスポーツに関しても、長野オリンピックではスキージャンプで活躍したが、コーチもスロベニアで有った。日本文化の関心が強く日本大使館との交流もある。スロベニアはウインタースポーツも強化している。

Q6) 旧ユーゴスラビアと聞くと暗いイメージであるが現在のスロベニアは？

A) 1991 年頃、旧ユーゴスラビアは共産主義で全ての病院、学校、等の公共的な処は全て無料であった。その為 50 歳から 60 歳位の多数の人々にとっては、其の時代が良かったとの思い出が強いが、90 年チトー大統領は上手く国を纏めていたが亡くなってから、ナショナリズムやパワーが無くなった。民族的争いが有った。90 年代スロベニアは独立をしてから早めにヨーロッパの民主主義を目指した。国としては落ち着いていたので「バルカン半島のスイス」と言われていた。

**【講演の感想】**

国土が小さな国では有るが、自然豊かな特色の多い文化を持った大国に感じた。音楽と映像が融合したプレゼンは、スロベニアへ小旅行をした気分になり、上空からのカルスト台地はとても素晴らしく機会があれば訪れて見たいと思います。未知の国の講演はとても勉強になり、日本との文化交流が盛んで有る事も知り、国と国の距離感を身近に感じました。素晴らしい講演有り難う御座いました。

（国際学術文化委員会　常任理事　渡部俊子）

# 都立三田高等学校・ユネスコ委員会の来訪
## ～ユネスコ活動および戦争と平和について考える～

日時：2018 年 6 月 19 日 16：00～17：00
会場：港区立生涯学習センター桜田記念室

今年も都立三田高校ユネスコ委員会の生徒さん 22 名が広瀬克己先生に引率されて、港ユネスコ協会を訪問してくれました。もう早いもので今年で 7 回目になります。永野博会長からユネスコ設立の意義と日本の加盟を実現させた民間ユネスコ運動の話があり、次に清水軍治理事が講師として、ご自身の戦争体験を話しました。また、体験談だけでなく持参されたアコーディオンの伴奏に合わせて、当時戦時中にあって国民の士気を鼓舞する目的で盛んに歌われた、いわゆる軍歌も披露して、当時の人々がどのような気持ちで歌っていたかを紹介してくれました。

後日、山内理央先生から、生徒さんお二人が書かれた感想文をお送りいただきましたので、下に掲載させていただきます。

感想文１：
6 月 19 日に、私たち都立三田高校ユネスコ委員会は、新橋にある港ユネスコ協会を訪問しました。そこで、清水 軍治さんに、時にはアコーディオンを交えながら、戦争体験を語っていただきました。軍治さんは戦争中は小学校高学年から中学生だったそうです。なので、従軍経験はないとの事でしたが、当時の国の雰囲気や子供たちの生活を知ることができました。私の中には疎開先が空襲された時のお話がとても印象に残りました。終戦の３日前に空襲され、40 人が生き埋めになったと聞き、虚しくやるせない気持ちになりました。今、戦争を生き抜いた方々の多くは、80 歳以上となってしまっています。そのため、この先は戦争を知っている人は少なくなっていくでしょう。そのことを踏まえても、私は今回貴重な体験をすることが出来ました。今日のお話は忘れずに、戦争についてのお話を引き継いだ責任を心に留めたいと思います。（三澤 環）

感想文２：
港ユネスコ協会に伺い、貴重な戦争の体験談をお聞きして、たくさんの事実を知り、様々な感情が湧き上がってきました。特に、最も印象に残っているのが、戦時中に子供でも歌わされたという、力強く悲惨で、日本の軍隊を鼓舞するかのような歌を、アコーディオンを使って聞かせてくれたことです。初めて直接自分の目と耳でそのような音楽を体感して、僕と同じ年の人や僕より幼い子供たちが歌っていたと考えると、切なくなりました。他にも、焼夷弾のことや疎開の話をたくさん聞き、改めて、戦争は悲しみしか生まないということを、実感しました。今、戦争の体験談を語れる人は少なくなっており、世界も平和になりつつあります。この出来事を風化させないためにも、僕たちが清水さんに聞いた話を、ユネスコ委員として次世代へ語り継ぐ義務があるように思います。僕たちにとって、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。（渡辺 賢太郎）

（事務局長　井上順一）

## 第 3 回 日本の民謡と民話 － 島根県 －

日時：2018 年 10 月 14 日（日）13 時 30 分～16 時 00 分
会場： 港区立生涯学習センター101 号室

今回は島根県を対象に選び、(1)出雲の民話を聞く（出雲弁で）、(2)踊り（講師による安来節のデモンストレーションおよび参加者による練習）を目的として実施しました。

（1） 民話の語り：

民話の語り部として多々納テル子さん（島根県出雲民話の会会員、88 歳）に遠路、出雲からご出演頂き、「神々の運定め」および「あわてものの大社さん参り」をお話し頂きました。多々納さんは、心豊かな口承文化としての一助となればとの思いを強く持たれて活動をされています。出雲弁での堂々とした語りに感動致しました。多々納さんが幼少の頃からいつも一緒だというお人形さんも参加しました。日本で受け継がれてきた様々な民話から、日本の歴史的背景や世情、教訓などを読み取ることができると思います。

（2） 踊り「安来節」：

踊りは一宇川 普さん（安来節保存会踊り師範・NHK 学園 あきる野オープンスクール講師）に、また唄・三味線は森脇 忍さん（島根県安来節保存会大江戸支部支部長）にお願いしました。安来節どじょうすくい踊りは、安来市無形文化財に指定された島根県の伝統芸です。ユーモラスなどじょうすくいの男踊りを唄や三味線の演奏で楽しみました。「安来節どじょうすくい男踊り」は、竹かごを使っての練習でした。スクワットの姿勢が基本の踊りで大変でしたが、参加者の中からお子さまが加わって下さり会場が和み、唄と三味線の伴奏で楽しく踊ることができました。

ひとこと：
　この度の事業開催にあたっては島根県東京事務所、島根県安来市役所、にほんばし島根館、出雲民話の会、安来節保存会のみなさまにご協力頂きました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

（副会長　平方一代）

---

## 第３７回みなと区民まつり

日時：２０１８年10月６日(土)１１：００～１７：００
場所：港区芝公園「みんなの広場」第５ブロック３０番

　毎年（土)、(日）の２日間行われのですが、今年は台風が近づき日曜日は強風の予報が出たため、土曜日だけの開催になりました。

　当協会のテント内にはいつものように各委員会のパネルを掛け、来訪者には活動の紹介、催しのチラシ配り、入会の案内をいたしました。過去の催しに興味をもってくださる方もいて、これからの協会活動への参加につなげられるようお誘いいたしました。例年、このイベントにおいでになる武井区長が今回も各テントを回られ、当協会へも声をかけてくださいました（右写真)。

「東日本大震災子ども支援募金」協力のミニバザーでは、用意された品数が昨年より少なかったこともあり、ほとんどが売れて、持ち帰るものはごくわずかでした。品物の提供をいただいた皆様、準備・片付けにご協力くださった平方さん、小林さん、ありがとうございました。来年はバザー用の品物集めを、早めにしようと思います。

（区民まつり委員会担当　常任理事　磯部豊子）

---

## 茶の湯入門講座
## ～初めての方向けの入門３回コース～

日時：2018 年 6 月 25 日（月）、7 月 23 日（月）および 9 月 24 日（月・祝）
会場：港区立生涯学習センター203 号室

参加費は 6000 円（2000 円×3 回分を前納）で、講師には

小野 宗恵（裏千家 専任講師）先生をお願いしています。

内容:

①お抹茶のいただき方

②茶道具の扱い方

③お抹茶のたて方

　この講座は港ユネスコ協会の自主事業として開催致しました。定員を５名とする少人数制の教室で、参加者の方にとりましては先生のご指導が行き届く内容になっています。10 月から二期目の 3 回コースが始まります。

（副会長　平方一代）

# 事 務 局 便 り

**【ようこそ　新入会員】**個人会員：柳元 美樹子さん、古市 容子さん、岩﨑 那由香さん

**【今後の事業予定】**（詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆1 月 9 日（水）～3 月 27 日（水）　初級英会話講座、毎水曜日、18：30～20：30、コース全 12 回
講師：マーク・マードック先生　会場：港区立麻布区民センター

☆1 月 9 日（水）～3 月 13 日（水）初中級英語講座、毎水曜日、18：30～20：30、コース全 10 回
講師：笠原三郎先生　会場：港区立生涯学習センター

☆12 月 4 日（火）港ユネスコ協会会報　和文 154 号、英文 153 号発行

☆12 月 1 日（土）13：30～16：00　日本語スピーチコンテスト
・日本語スピーチ、スピーカーと会場見学者との意見交換、授賞式
会場：港区立生涯学習センター101 号室

☆12 月 8 日（土）13：30～16：00　書道体験教室
講師：金田 翠夢
会場：港区立生涯学習センター304 号室

☆12 月 16 日（日）10：30～16：00　芝浦の歴史と麻布十番運河巡り
講師：東京海洋大学海洋政策文化学科教授　佐々木 剛
会場：東京海洋大学白鷹館講義室、麻布十番運河

☆1 月 22 日（火）18：30～20：30　第三回国際理解講演会「英語落語」
講師：英語落語家、神田外語講師　鹿鳴家 英楽
会場：港区立生涯学習センター101 号室

☆1 月 26 日（土）13：30～16：00　茶の湯体験教室
講師：裏千家　松村 宗幸
会場：港区立生涯学習センター203 号室

☆1 月 24 日（木）12：00～14：30　新年会員懇親会
会場：NEC 三田ハウス

☆1 月 26 日（月）第 3 回　茶の湯入門（3 回コース）
2 月 25 日（月）講師：小野 宗恵（裏千家 専任講師）
3 月 25 日（月）港区立生涯学習センター203 号室

**【ご協力のお願い】**

・日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金。常時受け付け中です（MUA事務局まで）。

［編集後記］

・アメリカの中間選挙も終わり、（嵐の前の）静けさがもどってきました。世界的な傾向として、極端な排他的自国第一主義勢力が台頭し、国民の支持を得ています。経済状況が悪くなれば、この傾向がますます強まるのではと危惧しています。第二次大戦が終結してから 70 有余年・・・灰色がかった世界中の空が、真っ青に晴れることを祈ります。（井上順一）

・米大統領の自国第一主義に起因する中国との貿易戦争は、世界経済の大きな不安定要因となっているが、これがロシアとの INF 条約破棄など安全保障を含めた政治・外交分野にも広がりをみせている。さらにナショナリズムに飛び火して、本格的な覇権争いが世界中に拡大していかないか、懸念される。（前田幹博）

・映画”Bohemian Rhapsody”を観た。伝説のバンド Queen のストーリー。ロックなのにクラシックっぽい楽曲の Queen は異色の存在だったと思う。映画を観て、やっぱりすごいバンドだったんだと改めて実感。生でライブが見たかったなぁ。（小林真弓）

・丁度、学園祭の期間中に開催された母校大学の年次 Homecoming Day に出席してみた。学長やゲストスピーカーの講話を拝聴したほか、ここ数年、全国の学園祭コンテストでトップに選ばれているという若い後輩たちの創意工夫に溢れた出店・催事・展示物を見て楽しんだ。（棚橋征一）

港ユネスコ協会事務局：（火～金 10:30～17:00）、〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300、TEL&FAX 03(3434)2233、E メール：info@minatounesco.jp、 ウェブサイト：http://minato-unesco.jp